

平成 28 年度学術情報システム委員会活動経過報告書

I. 平成 28 年度第 1 回学術情報システム委員会議事要録

日 時：平成 28 年 9 月 5 日（月）15:30～17:10

場 所：京都大学附属図書館 4 階 応接室

出 席：引原委員長、相原（テレビ会議システム）、米澤、森いづみ、森仁志、大西、甲斐、
山田、渡邊、細川の各委員

事 務：井上（京都大学）

陪 席：鈴木（京都大学）

議事に先立ち、引原委員長から挨拶後、各委員が自己紹介を行った。

また引原委員長から、本委員会のもとに GIF プロジェクトチームが位置付けられており、相原委員が両方に属している旨の補足があった。

議事概要

1. 事業内容及び事業計画について

甲斐委員から資料 1 に基づき、国立大学図書館協会会長より依頼のあった事項及び事務局作成の案について説明があり、内容を確認し、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- 1) 事業内容については、国立大学図書館協会（以下「協会」と言う。）のビジョン 2020 を踏まえ、今後 4 年間に取り組むことを想定する。
- 2) 協会のもとに置かれた各委員会が所掌する範囲は一部重複する可能性もあるため、形式にこだわらずに連携し、必要に応じて合同で検討する等の対応が必要ではないか。
- 3) 学術情報システム委員会内で扱うメタデータの定義（範囲）や位置づけが不明確なので、本委員会で議論すべきではないか。例えば「機関リポジトリ推進委員会ワーキンググループ」で検討中のメタデータなど、他の委員会が取り組んでいる成果の活用も含めて、トータルで考える視点が必要ではないか。
- 4) GIF をはじめとする ILL 業務は、事業内容案にある探索・発見、探索・検索には含まれないので新たな語句を追加するなど、工夫すべきではないか。
- 5) 「これからの学術情報システム構築検討委員会（以下「これから委員会」と言う。）」の下の「電子リソースデータ共有作業部会」が検討を進める「ERDB-JP（国内刊行電子リソースの共有サービス）」についても、国立大学としての対応を本委員会で議論すべきではないか。

- 6) 学術情報の基盤システムに必要な要件について、本委員会で議論すべきではないか。
- 7) 本委員会のミッションとは別かもしれないが、4年よりさらに先の学術情報システムに関する将来を見据えた議論をする場が必要ではないか。

2. 平成 28 年度学術情報システム委員会の進め方について

甲斐委員から資料 2 に基づき、本委員会が重点を置くべき事業と本委員会の進め方の案について説明があり、内容を確認し、意見交換を行ったうえで以下を了承した。

- 1) 本委員会では、これから委員会が公開した「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（基本方針）」を受け、具体的な対応について方針を検討することとする。
- 2) 資料 2 の提案については、中期及び短期ともに、さらに具体的な課題を検討したうえで、協会の理事会に諮ることとする。
- 3) 本委員会の進め方は原案どおり了承し、本委員会が取り組む事項について、可能な範囲で活動ロードマップを作成し、メールやテレビ会議システムも活用しつつ、進めることとする。

以上を踏まえて、議事 1 にて提案された、本委員会の事業内容、平成 28 年度の事業計画及び重点事項について協議した結果、本委員会が検討するシステムを明確にすることも必要であり、後日あらためて対応した修正案をメールにて提示し、引き続き検討することとなった。

3. その他

特になし。

以上

配付資料

- ・ 平成 28 年度第 1 回学術情報システム委員会出席者名簿
- ・ 1-1 事業内容及び事業計画について
- ・ 1-2 事業内容及び事業計画の作成について
- ・ 1-3 国立大学図書館協会ビジョン 2020
- ・ 2 平成 28 年度の学術情報システム委員会の進め方について
- ・ 参考 NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について(基本方針)